

2016 年度大学入試センター試験 解説〈地理B〉

第1問 世界の自然環境と自然災害

問1 正解は①

地震の震源分布を深さ別に表した4地点の図を判定する。大地形の分野からの出題としては新傾向で、①と②の判定がやや難しい。世界の地体構造の分布から考える。

- A 大スンダ列島に平行するスンダ海溝付近。プレートの狭まる境界にあたり、地震の巣となっている。このため、多数の震源が分布する①に該当する。プレート境界型の地震は、海洋プレートが大陸プレートの下に斜めに沈み込む接触面に沿って震源が分布するため、大陸側（①図の北東部）ほど震源が深くなっている。
- B かつて変動帯であった古期造山帯のグレートディヴァイディング山脈付近。地震の発生がほとんどないため④に該当する。
- C プレート中央部で局所的にマントルが上昇するホットスポットと呼ばれる位置にあるハワイ諸島付近。狭い範囲に震源が集中する③に該当する。
- D プレートがずれる境界であるサンアンドレアス断層が存在するアメリカ合衆国太平洋岸。横ずれ断層特有の比較的浅い震源が、断層に沿って筋状に分布する②に該当する。

問2 正解は③

火山と人間生活に関する文章の正誤を判定する。基本的な設問である。

- ③ 誤文。「噴火直後」の火山灰に有機物はあり得ない。長期間を経過すれば腐植を得て肥沃な土壌になる場合もある。
- ① 正文。独特の景観をもつ火山地形は、温泉と並ぶ観光資源となっている。
- ② 正文。地熱発電の割合が高いフィリピンやニュージーランドは火山国である。
- ④ 正文。地下水は火砕流堆積物の亀裂部（クラック）などに貯留することが多い。

問3 正解は②

植生の高さを示した4地点の図を判定する。目新しい図であるため受験生を悩ませたであろうが、ケッペンの気候区分は植生に対応したものであるから、気候区分図を想起しながら考えればよい。このとき、赤道の位置が手がかりとなるだろう。

- H 南スーダン（とスーダンの国境）からエチオピアにかけての地域。西から、サバナ気候（とステップ気候の遷移地域）→温暖冬季少雨気候（高度の高い高原付近）→ステップ気候→砂漠気候と並ぶ。このため、西側で灌木（樹高の低い木）、東側で無樹木の②に該当する。

- E モーリタニア～マリの砂漠気候。無樹林の①に該当する。
- F コンゴ民主共和国の熱帯雨林気候。喬木（樹高の高い木）が密生する④に該当する。
- G アンゴラのサバナ気候。灌木の疎林が分布する③に該当する。

問4 正解は⑤

地図上の3つの湖沼の衛星写真と成因を説明した文を組合せる。JとLの判別が決め手となる。

- J アルプス地方を示しているため、山岳氷河によるU字谷が水没した氷河湖であると考えられ、ウに該当する。比較的単純で細長い湖岸線も氷河による侵食を示唆する（スイスのチューリヒ湖）。
- K 北海道にはカルデラ湖が多い。写真からも、外輪山からなる湖岸線と中央火口丘が島として残っていることが読み取れる。よって、アに該当する（洞爺湖）。
- L 写真の複雑な湖岸線の形状から、河川に侵食された多くのV字谷をもつ山地に形成された堰止湖とわかるので、イに該当する（ワイカレモアナ湖）。なお、火山の多いニュージーランド北島には、国内最大のタウポ湖などのカルデラ湖もみられるので注意したい。

問5 正解は①

南アメリカ大陸の1月と7月の風向・降水量を示した地図を判定する。風向(WとX)の判別がやや難しい。

風向：Wが7月、Xが1月である。貿易風が吹き込む赤道低圧帯（熱帯収束帯）の位置を探すと、Wでは赤道～北緯10度付近、Xでは赤道～南緯20度付近に確認できる。この判断はやや難しいが、赤道上のアマゾン川河口付近の風向をみると、Wでは南東（だから赤道低圧帯はそれより北）、Xでは北東となっている。気圧帯は、太陽の回帰によって7月には北側、1月には南側に移動することから判別できる。

降水量：Yが7月、Zが1月。赤道低圧帯では、上昇気流が卓越し、降水量が多くなることから判別できる。

問6 正解は①

4か国の水資源賦存量に関する統計を判定する。「賦存量」という用語は耳慣れない受験生も多かったであろうが、注の文章を読めば理解できるだろう。初見でも解ける良問である。

- ① エジプトである。国土が乾燥帯にあるうえ、人口が多く（8千万人超）で、1人当たり水資源賦存量はごくわずかとなる。主に水資源を依存するナイル川は、湿潤地域に

水源をもつ外来河川である。そのため国外水資源賦存量の割合は高い。

- ② 中国である。西部内陸に広大な乾燥帯が広がるうえ、巨大な人口をもつため、東部沿岸での降水量は多いが1人当たり水資源賦存量はやや小さい。一方、長江をはじめとする主要河川の大半は国内に水源をもつため、国外水資源賦存量の割合は低い。
- ③ バングラデシュである。人口は多いが、夏のモンスーンの影響で降水量が多いうえ、流量の大きな河川が流れるため、1人当たり水資源賦存量はやや大きい。しかし、主要河川であるガンジス川はインド、ブラマプトラ川は中国に源を発する。
- ④ チリである。低緯度地方は寒流の影響で乾燥するが、中～南部には温帯が広がり、偏西風の影響で降水量は多い。さらに人口は4か国中最も少なく（2千万人弱）、1人当たり水資源賦存量は大きい。一方、アンデス山脈によって区切られた国土には、隣接国からの流入河川はみられない。

第2問 世界の工業

問1 正解は③

アメリカ合衆国とヨーロッパの工業地域の成り立ちに関する説明の正誤を判定する。
具体的な都市名を思い浮かべながら考えたい知識問題である。

- ③ 誤文。自動車工業ではなく航空機産業が発達している。シアトルではボーイング社、トゥールーズではエアバス社が大型航空機を製造している。
- ① 正文。ピッツバーグ（アパラチア炭田）・バーミンガム（ミッドランド炭田）・エッセンなど（ルール炭田）・チェンストホヴァ（シロンスク炭田）は、いずれも付近で産出される石炭を用いて鉄鋼業が発達した。
- ② 正文。ヒューストン（メキシコ湾岸油田）・ミドルズブラ（北海油田）は、いずれも付近で産出される原油を用いて石油化学工業が発達した。
- ④ 正文。カリフォルニア州のシリコンヴァレー・ロンドン・パリでは、近隣に立地する大学や研究機関と結びついて先端技術産業が発達した。

問2 正解は④

工業立地に関する文章の正誤を判定する。基本問題である。

- ④ 誤文。ビール工業は水という普遍原料（どこでも得られる）の重量割合が高く、瓶詰めで製品が重くなり、鮮度が求められるため、製品の輸送費を最小にする市場指向型工業の典型とされる。
- ① 正文。アパレル産業は新しい流行などの情報が欠かせない。
- ② 正文。アルミニウムはアルミナを電気分解して得られる。
- ③ 正文。電気機械の加工組立は労働集約的な産業である。

問3 正解は⑥

3つの指標における上位国を示した統計地図(図形表現図)を判別する。カとクの判断が決め手となる。

カ 産業用ロボットの稼働台数である。主に日米欧の先進工業国での稼働が中心であるが、「世界の工場」である中国でも利用されている。また、この指標において日本が世界最大であることを覚えておきたい。

キ 豊富な資源を利用した工業化を進める BRICS 諸国が上位にくることから、工業部門の二酸化炭素排出量と判断する。中国がアメリカ合衆国を抜いて世界最大の排出国になっていることを覚えておきたい頻出の指標である。

ク 技術貿易の受取額である。世界の科学技術をリードし、先端技術産業・情報技術産業が発達したアメリカ合衆国が突出しており、日欧の先進国がこれに続くことからわかる。

問4 正解は②

製造業の雇用者1人当たりの工業付加価値額とGDPに占める鉱工業の割合を示す4か国の統計を判定する。前者の数値が事実上経済水準のランクに対応している。

②は韓国である。半導体・電気機器などの輸出産業が国家経済を支えている。①はスイスである。医薬品など付加価値の高い製造業が盛んである。③はメキシコ、④は中国である。GDPに占める鉱工業の割合が特に高いものの、人口が多いため「1人当たり」の数値が低くなる中国が④に該当している。

問5 正解は④

3つの国・地域および日本との間の輸出入額の統計を判別し、それらの組合せを選ぶ。過去に頻出の内容である。

P アメリカ合衆国である。巨大な国内市場を抱え、どの国・地域に対しても輸入超過となる貿易赤字国である。

Q 中国である。Pのアメリカ合衆国に大量の工業製品を輸出している。「世界の工場」として、輸出超過国となっている。

R ASEANである。消去法的な判断で構わない。

問6 正解は④

世界の工業化と産業地域に関する文章の正誤を判定する。標準的な内容だが、新課程の教科書で取り上げられた内容が決め手となっている。

④ 正文。コンテンツとは、娯楽や教育などを目的にして作られた「内容」のことで、

映像・音楽・ゲームなどを指す。日本のコンテンツ産業の多くは東京などの大都市に集積する。

- ① 誤文。サハラ以南のアフリカに重化学工業のコンビナートは存在しない。あえて探せば、南アフリカ共和国の沿岸部に石油精製工業が立地しているものの、アフリカ南部の内陸では石油資源は乏しく、海外から輸入した原油を用いた産業である。
- ② 誤文。一般的に、輸出加工区では現地の低賃金労働力を利用して、労働集約的な加工組立工業や繊維産業などが行われる。ベンチャービジネスとは、高度な技術・知識をもとに先進的な経営を行なう（おもに小規模の）企業のことである。
- ③ 誤文。東南アジアの工業化では、輸入代替型から輸出指向型への転換がみられた。

第3問 都市・村落と生活文化

問1 13 正解は②

1人当たりGDPと都市人口率の推移に関する4か国の統計を判別する。両者は正の相関にあるが、やや例外的な国について問われた。横軸が対数目盛りになっていることに注意したい。

- ② アルゼンチンである。イギリスを除く3か国は発展途上国、そのうちアルゼンチンとマレーシアは、工業化によって1人当たりGDPがやや高まっている。そのうえ、ラテンアメリカ諸国は入植者の集住によって、発展途上国としては例外的に都市人口率が高い。
- ① イギリスである。1人当たりGDPが突出して高く、都市人口率も高位である。
- ③ マレーシアである。工業化が進み、近年の経済成長が著しい。
- ④ ナイジェリアである。中南アフリカに位置し、いずれの指標も低位となっている。

問2 14 正解は①

特定の機能が発達した都市に関する文章の正誤を判定する。やや細かい地誌の知識がものをいう問題である。新課程では、このような地誌的な設問が増加する可能性がある。

- ① 正文。ターチン（大慶）は中国・東北部の都市で、同国最大の油田を基盤に石油関連産業が発展し、「工業はターチンに学べ」という標語が生まれた。
- ② 誤文。地中海に面するフランス南東岸コートダジュールに位置するニースは、夏のバカンスを楽しむ高級な海浜リゾートとして知られる。
- ③ 誤文。パナマシティは、カリブ海と太平洋を結ぶパナマ運河の太平洋側に位置するパナマの首都である（カリブ海側の都市はコロン）。地中海と紅海を結ぶのはスエズ運河である（地中海側の都市はポートサイド、紅海側の都市はスエズ）。
- ④ 誤文。モントリオールはフランス系住民の割合が高いケベック州の中心都市で、イ

ギリス系住民の多いカナダ最大都市のトロントに次ぐ人口を持つ。首都制定に際して、イギリス女王によって両都市の中間にあった小都市オタワが選ばれた。

問3 15 正解は②

日本のある都市について3つの指標を示した統計地図(階級区分図)を判別する組合せ問題である。鉄道路線や小地域の境界を参考に都心部の位置(図中央南部)を推定したうえで検討したい。イとウの判断に注意したい。なお、この都市は愛知県一宮市と考えられる。

- ア 人口密度である。都心部に高位の分布が集中している。人口分布が疎らな郊外では、小地域の区画も広くなる傾向がある。
- イ 老年人口割合である。都心の旧市街地と周縁部の農村地域などで高位となる。
- ウ 農業・林業就業者割合である。都心部で低位、周縁部で高位となる。

問4 16 正解は④

砺波平野の散村を示す写真に基づいて、散村の特徴に関する文章の正誤を判定する。写真を見ながら考えれば難しくない。

- ④ 誤文。散村では一般的に農家の経営規模は大きい。散村は主に新しい開拓地にみられる。比較的広大な耕地を経営するには、散村のほうが合理的である。③と④の直前に「海外でもみられ、その一般的な特徴として」とあるので、代表的な散村であるアメリカ合衆国のタウンシップを想起したい。
- ① 正文。耕地整理の様子は写真からも読み取れる。
- ② 正文。砺波平野ではこのような屋敷林を「カイニョ」と呼ぶ。
- ③ 正文。耕地が自宅周辺に配置されれば、農作業を効率的に行うことができる。

問5 17 正解は②

伝統的な住居に関する文章の正誤を判定する。類似の論点は、過去問でも写真を用いた問題などで頻出である。確実に得点したい。

- ② 誤文。北アフリカの乾燥した地域では、強い日射・熱風・砂塵などが屋内に入るのを防ぐため、窓や戸口など開口部の小さい建物が多い。土は日干しレンガに加工して利用する。
- ① 正文。イヌイットの伝統的な冬季の住居イグルーのことである。
- ③ 正文。朝鮮半島の伝統的な暖房システムとして知られるオンドルのことである。
- ④ 正文。東南アジアの高温多湿な地域でみられる高床式は、野獣や害虫を防ぐためでもある。急勾配の屋根などの特徴も持つ。

問6 18 正解は③

南アジア諸国の宗教別人口割合を示した統計を判別する。インドとその周辺諸国には、旧イギリス領からの独立時に宗教によって国が分裂した歴史があり、この宗教分布は入試頻出テーマとなっている。主要宗教が他と重ならないスリランカは特に判別しやすく、易問である。

- ③ スリランカである。主要民族シンハラ人は仏教徒（上座仏教）である。ヒンドゥー教徒である少数民族タミル人にも注意する。
- ① パキスタンである。カシミール地方（住民がイスラム教徒，旧支配者がヒンドゥー教徒）の領有をめぐりインドと対立している。
- ② バングラデシュである。かつてパキスタンの一部であった東パキスタンが分離・独立したため，やはりイスラム教徒が多い。①と②の判別はやや難しい。
- ④ ネパールである。人口の大半が集中するヒマラヤ山脈南麓にはヒンドゥー教徒，北麓（チベット側）には仏教徒が多い。

第4問 ヨーロッパ

問1 19 正解は③

地図中4地域の自然環境と土地利用に関する文章を判別する。それぞれ文章に含まれるキーワードを見逃さないようにしたい。標準的な難易度の問題である。

- ① C（パダノヴェネタ平野）。ポー川流域に温暖湿潤気候が分布し，稲作が行われる。
- ② B（パリ盆地）。選択侵食によるケスタ地形の説明である。
- ③ D（スロベニア）である。ポリエはカルスト地形を示す用語だが，「カルスト」という語はスロベニアの地名（クラス地方）が元になっている。石灰岩を母材とした間帯土壌テラロッサが分布する地域でもある。
- ④ A（スコットランド地溝帯）。酪農や牧羊はイギリス農業の特徴を示している。

問2 20 正解は②

地図中のライン川・ドナウ川沿いの4都市に関する文章を判別する。各都市の歴史的背景を含んだ内容であり，やや難易度の高い設問である。

- ② J（デュッセルドルフ）である。後背地の接続都市（コナベーション）とは，ルール地方（エッセン・ドルトムントなど）を指す。
- ① L（ウィーン）である。オーストリアの首都であり，「音楽の都」として著名である。
- ③ K（ストラスブール）である。独仏国境に近いアルザス・ロレーヌ地方は，両国の領土争いに蹂躪された歴史をもつ。ストラスブールにはEU（欧州連合）のヨーロッパ議会がおかれている。

- ④ M (ベオグラード) である。連邦国家とは旧ユーゴスラビア, 1990 年代の政情不安や紛争とは, ボスニア=ヘルツェゴビナ紛争などへ介入したことに対する国際社会からの経済制裁や, コソボ自治州のアルバニア人勢力との対立 (コソボ紛争) などである。

問3 21 正解は⑤

EU加盟国の農業に関する3つの指標を示した統計地図(階級区分図)を判別する。図が紛らわしく, 受験生を悩ませたであろう問題のひとつである。

- ア 農地面積1ha当たりの農業生産額である。土地生産性を意味する指標なので, 狭い農地で集約的な生産を行う酪農や園芸農業が盛んな国が高位となる。具体的にはデンマークやオランダ・ベルギーなど比較的面積の小さい国が想起できる。
- イ 農産物の輸出入比である。ポーランドやハンガリーなどの中東欧諸国, スペイン, アイルランドといった周縁地域が高位になっている図はイのみである。これらの国々は経済に占める農業生産の割合が比較的高く, 輸出の割合が大きくなる。
- ウ 農業人口1人当たりの農業生産額である。農業の高度な合理化や機械化が進んだ先進地域で高位になる指標であるため, EUの中核を占めるドイツやフランスが高位, 周縁地域が低位となっている図を選ぶ。

問4 22 正解は①

いくつかの国の自国民および外国人の失業率を示したグラフ(散布図)を判定する。資料の内容についても, 複数の国をまとめた選択肢についても馴染みが薄く, 判断に手間取った受験生が多かったと思われる。難問といえよう。本問は判断しやすい順に解説する。

- カ ② (ギリシャ, スペイン) である。財政危機を引き起こし, ヨーロッパでPIIGSと揶揄される国々であり, 失業率が極端に高い。
- ク ③ (スイス, ノルウェー) である。金融業やハイテク産業など, 高付加価値産業を発達させており, 経済が安定しているため失業率が特に低い。
- ケ ④ (ハンガリー, ポーランド) である。東欧のEU加盟によって出稼ぎのための移動が容易になり, 労働者が東欧から大量流出する一方, 西側諸国の企業は生産コストの低い東欧に生産拠点の移転を進めており, 東欧では人手不足が起きている。これを補うようにウクライナなどからの移民が流入しており, 外国人労働者の失業率は自国民と同程度かそれ以下である。
- キ ① (オランダ, フランス) である。両国とも経済水準が比較的高く, イスラム圏を中心とする旧植民地などから多数の移民が流入している。しかし, 失業率の差に現れる移民と自国民との経済格差は大きく, その文化的な軋轢も深刻であり, フランスで

のテロ事件などの背景となっている。

問5 23 正解は③

イタリア・ドイツ・ベルギー 3 か国の国内における地域間経済格差に関する文章を判別する組合せ式問題である。南北格差が共通するシとスを丁寧に判断したい。

サ ドイツである。1990 年の東西ドイツ統一を想起すればよい。東西格差を説明している文はこれのみである。

シ イタリアである。北部優位が過去から現在まで継続している。南部の製鉄所はタラントに建設されたものである。

ス ベルギーである。多民族国家であり、北部のフラマン人（オランダ語）と南部のワロン人（フランス語）の言語紛争が背景にある。かつて優位だった南部が衰退した。

問6 24 正解は②

EU 発足後のヨーロッパ地域経済に関する文章の正誤を判定する。正文も誤文も明確に判断しづらいもので、やや難しい問題である。

② 誤文。域内の経済関係が強化されたとしても、域外からの直接投資が減少する理由とならない。むしろ、域内統合の進化によってさまざまな規制が緩和され、域外企業にとって魅力のある投資先になると考えられる。実際、日米の企業が EU への投資を活発化させている。

① 正文。1995 年発足のシェンゲン協定によって、大半の加盟国間で国境管理が撤廃され、人の移動の自由化が達成された。

③ 正文。アグリツーリズム（グリーンツーリズム）などと呼ばれる取り組みである。行き詰まった共通農業政策が転換し、このような地域への補助を行っている。

④ 正文。例えば、イギリス・ドイツ・スウェーデンなどで、かつての大製鉄所が産業遺産として博物館などに整備されており、一部はユネスコの世界遺産に登録されている。

第5問 インドと南アフリカ共和国

問1 25 正解は③

インドと南アフリカ共和国の自然環境と農業の特徴について、両国の地図中の各地域について共通点を述べた文章の正誤を判定する。工夫された良問であるが、南アフリカ共和国について地域別の学習をする機会は少ないので、受験生を悩ませたかもしれない。誤文が比較的明確なので、消去法で選ぶことになるだろう。

③ 正文。C（デカン高原）は、ステップ気候のもとで玄武岩を母材とした間帯土壌の

レグールが分布する綿花地帯である。南アフリカ共和国の G 付近は、ステップ気候が分布する灌漑農業地域である。

- ① 誤文。A (大インド砂漠)・E (ナミブ砂漠) ではカカオ栽培はみられない。カカオの主産地は湿潤地域であり、ギニア湾岸 (コートジボワール・ガーナ) や東南アジア (インドネシア) である。
- ② 誤文。F (ケープタウン周辺) には冬に雨の多い地中海性気候が分布し、ブドウの栽培が盛んといえるが、B (インド南西岸) は南西季節風により夏の雨が多い稲作地域 (熱帯モンスーン気候) で、ブドウの大規模栽培はみられない。
- ④ 誤文。ライ麦はヨーロッパの高緯度地域 (ドイツ・ポーランド・ロシアなど) で栽培される。

問2 26 正解は②

BRICS 諸国の 1 人当たり GDP と輸出額に占める工業製品の割合を示したグラフ (散布図) においてインドを判別する。統計間の差異が大きいため、比較的判定しやすい問題である。

まず、②はインドである。1 人当たり GDP が著しく低位であることから判断したい。経済の自由化以降、輸出指向型の工業化が進行している点にも留意したい。次に①は中国である。「世界の工場」として工業製品輸出に特化している。④はロシアである。ロシアは原油などの資源輸出に依存した経済構造になっており、輸出額に占める工業製品の割合が最も低い。また、資源価格の高騰などを背景に 2000 年代以降は 1 人当たり GDP が急速に高まっている。残る③がブラジルである。

問3 27 正解は①

インドと南アフリカ共和国の鉱産資源について説明した文章中の空欄を補充する語句の組合せを選択する。いずれも合金の材料となるクロムとすずの判別が難しい。

- ア クロムである。産出量は第 1 位南アフリカ共和国 (43.0%)、第 2 位カザフスタン (15.6%)、第 3 位インド (15.2%) となっている (2012 年)。
- イ インドである。インドとイスラエルについて、ダイヤモンドの加工貿易国 (輸出品目と輸入品目の両方の上位にダイヤモンドが入る) として、過去問でも扱われている。

問4 28 正解は②

イギリスとの関係から見たインドと南アフリカ共和国の共通点に関する文章の正誤を判定する。両国に関する歴史・文化など多角的な知識を要求される難問である。

- ② 正文。イギリス連邦とは、イギリスおよびかつてイギリスの植民地だった独立国と

の緩やかな国家連合である。インド（1947 年）と南アフリカ共和国（1934 年）はいずれもイギリスから独立した歴史をもつ。

- ① 誤文。植民地支配を行っていた時代から、イギリスの世界経済における地位は著しく低下している。最大の貿易相手国は、両国とも中国である（2013 年、輸出入額の合計）。
- ③ 誤文。インドではヒンディー語が連邦公用語だが、各地方では地方言語と英語が公用語となっている。南アフリカ共和国では英語・アフリカーンス語（オランダ系白人の言語）に加え、バントゥー諸語 9 言語が公用語に指定されている。
- ④ 誤文。南アフリカ共和国は 1934 年に独立したが、インドは第二次世界大戦後の 1947 年に独立した。

問 5 29 正解は④

インドと南アフリカ共和国の社会に関する文章の正誤を判定する。両国の地誌的知識というより、都市・人口に関する常識的な理解から誤文を判別できる基本問題である。

- ④ 誤文。一般的に発展途上国では、投資が都心部に集中するため、そもそも郊外には商業施設やオフィスがほとんど立地しない。ヨハネスバーグでは、都心部の治安の悪化が問題になっており、この点からも誤文とわかる。
- ① 正文。インドのヒンドゥー教社会では、身分はヴァルナ、職業ごとの階級はジャーティと呼ばれる。「カースト」はこれらの総称である。
- ② 正文。インドの農村部では、限られた農地の相続にあやかれない人々が余剰労働力となり、職を求めて都市部へ流入する。
- ③ 正文。南アフリカ共和国のアパルトヘイト（人種隔離政策）は、白人による有色人種に対する差別政策である。

第 6 問 地域調査（岩手県北上市周辺）

問 1 30 正解は①

地勢図上の 4 つの場所に対応する鳥瞰図を判別する。慣れていないと迷うが、センター試験では頻出の形式であり、十分に準備しておきたいタイプの問題である。

- ① エである。手前と左手に山地がみえる。左手の山地から開けた扇状地もヒントになるだろう。これは大規模な扇状地として知られる胆沢扇状地である。
- ② アである。右手に山地がみえる。
- ③ イである。左手に山地がみえる。
- ④ ウである。扇状地を左奥に望む。

問2 31 正解は③

地形図に関する会話文中の空欄補充の組合せを選択する。過去に例のないユニークな出題である。落ち着いて空欄の前後だけでなく全体を丁寧に読んでいけば決して難しい内容ではないが、時間配分に失敗して慌てているとミスをしそうな問題である。まず、南部藩領と伊達藩領の位置を正確に把握したい。

- カ 南部藩である。境界線の北西部にあたる南部藩領では、北東に向かって流れる夏油川の水を水田用の灌漑に利用している。伊達藩領にはそのような河川がない。
- キ 伊達藩である。中央の「伊吹」などに溜池が確認できる。
- ク 伊達藩である。西側の「遠谷巾」付近の長方形の農地をみると、区画に沿って針葉樹が直線的に並んでおり、植樹であることがわかる。
- ケ 南部藩である。植樹のみられない長方形の農地が広がっている。

問3 32 正解は①

地勢図中の3地点の景観を示した写真を判別する。常識を働かせて判断したい。

- サ 比較的新しい住宅地がみえる。また、全体的に土地の利用度が低い。よって市街地から最も離れたAに該当する。
- シ 道路の両側に大型店舗が並んでいる。自動車交通を前提としたロードサイドショップである。鉄道からやや離れた市街地周縁の幹線道路（陸羽街道）沿いであるBに該当する。
- ス アーケードをもつ商店街である。ビルなどの建物が密集している。鉄道駅に近い市街地であるCに該当する。

問4 33 正解は④

北上市の製造品出荷額の上位5業種と総従業者数を示した統計において、3つの業種名の組合せを選択する。チとツの判断がポイントとなっている。やや長くなるが丁寧に説明しておこう。

- タ 窯業・土石製品である。1960年代の高度経済成長を通して重化学工業が成長すると、窯業を含む軽工業の地位は低下した。
- チ 電気機械器具である。1970年代の石油危機により高度経済成長が終わると、資源を大量に用いる重厚長大型の製造業が衰退し、代わって高度な加工組立型産業が発達し、日本の産業構造が転換した。これに伴って工業地域の分布も変化した。以前は海外からの資源輸入に便利な臨海部に立地したが、過度の集積によって用地・用水不足や環境問題などの課題も深刻化した。産業構造の高度化によって製品が軽薄短小化すると、輸送コストによる立地の制限が小さくなり、大都市部から遠い地域や、内陸部にも工

業地域が分散するようになった。こうして 1980 年代には、半導体製造のような先端技術産業を誘致するための工業団地が、航空機輸送や自動車輸送を前提に九州や東北の幹線道路沿いや空港周辺に立地した。そのため九州は「シリコンアイランド」、東北は「シリコンロード」などと呼ばれた。半導体部品などを組み立てて製造する電気機械器具の製造業もこれらの地域に立地することになった（電子部品である半導体製品自体も 1985 年時点では電気機械器具に含まれる）。

ツ 輸送用機械器具である。1990 年代には、激しい国際競争の下で豊富な労働力や安価な立地コストを求めて自動車産業が東北地方に進出した。九州でも同様の立地が増加し「カーアイランド」なる言葉も生まれた。これらの新しい産業の進出は、大きな就業機会の増加を地元にもたらしている。

問 5 34 正解は④

岩手県の主な交通網と 3 つの指標を示した主題図（階級区分図）を判別する。マとムの評定を慎重に行いたい。

マ 通勤・通学者に占める他市町村への通勤・通学者の割合である。岩手県では盛岡市が最大の中心地機能をもつため、同市と交通網で結ばれた南北に隣接する市町村を中心として他市町村への通勤・通学者が多くなる。

ミ 1 km 当たりの事業所数である。大都市ほど事業所は集積するので、盛岡市が高位となっている。

ム 1 世帯当たりの自動車保有台数である。高齢化・過疎化の進む内陸の山間部では、公共交通機関も乏しく、自動車の利用が日常生活上必須となるので、自動車保有率が高くなる。

問 6 35 正解は④

統計地図の表現方法に関して述べた文について、正誤を判定する。主題図の利用法に関する正誤判定は、センター試験頻出の問題である。確実に正解したい。

- ④ 誤文。流線図とは、矢印によって人・貨物・資本などの移動を示す統計地図である。矢印の始点・終点が移動の始点・終点に、矢印の太さが移動量に対応する。駐車場収容台数は、図形表現図などを用いるのがよい。
- ① 正文。観光地ごとに外国人客数に比例した大きさの図形を描けばよく、図形表現図が適している。
- ② 正文。「割合」のような相対値は階級区分図の利用に適している。
- ③ 正文。ドットマップは分布の粗密を表現できる。